



新泉・和泉地区

小中一貫教育 ニュースレター

拓ぎ・高め・繋がる
小中一貫教育

杉並和泉学園ではICTを活用した 授業が展開されます。

ICT機器を活用することで、作品や資料を大きく提示したり、児童・生徒が話し合った意見を
集約したりするなど様々な授業を行うことができます。三校合同研での授業の様子をお知らせします。

ICT (Information and Communication Technologyの略語) コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術のこと。

無線LAN

ICT機器の配線が必要なくなり、教室内外でICT機器を使用できます。



天吊プロジェクター

利用準備が簡単で、スクリーンへの影の映り込みを少なくできるプロジェクターです。

取り外し可能スクリーン
使用時は引き出してスクリーンに、使用しない時は普段通り黒板として使うことができます。



書画カメラ

手元の作業やワークシート等を簡単に拡大して提示できます。

タブレットPC

画面を直接触って操作できるパソコンです。

ICT機器を活用した3校合同研究授業。

日時 平成26年10月29日(水)
 場所 和泉小学校各教室
 時程 13:40~14:25 5校時(研究授業)

国語 学年6年 単元名「平和のとりでを築く」

話し合いを行う際に、集めた資料(画像)をPCを活用して聞き手に提示することで自分の考えに説得力をもたせる。

ICT機器活用のねらい

「平和」について考えたことを文章だけでなく、PCを活用して資料(画像)を提示することで、より分かりやすく説得力をもたせて聞き手に伝えることができます。グループごとにPCを使用させることで、資料を選択し直したり追加したりしながら、発表内容の質を自分たちで話し合いながら高めていくことができました。



パソコンに映し出された画像は、自分たちが掲げたテーマと合っているか話し合います。

意見と画像が合っていないから、日本の戦争についての写真を選ぶと説得力が出るよ。



教育システムの資料について、もっと詳しく説明を付け足した方が分かりやすくなると思うよ。

算数 学年1年 単元名「比べ方」

自分や友達の考えを見える形にして、学級全体で共有する。

ICT機器活用のねらい

一年生の児童にとって、自分の思考過程や考えを説明するのは、とても難しいことです。また、友達の説明を聞く児童も、言葉だけで理解するのは難しいです。そこで、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるため、タブレットパソコンや書画カメラを活用して、児童がどのように考えたのかを再現しました。低学年でもICTの活用で、意見の交流がより活発になってきました。



半具体物を使って、長さを実感しながら学習を進めてきました。

私が考えた方法を書画カメラで写して、発表したら、友達にわかってもらえるかな。

紙テープの長さを比べるときは、端を揃えて伸ばしてみると、どちらが長い分かるかな。端をそろえているところを書画カメラで写してもらおう。



社会 学年5年 単元名「工業生産と貿易」

タブレットパソコンに資料を一斉送信し、グループごとに詳細な数値や図を読み取り内容の理解を深める。

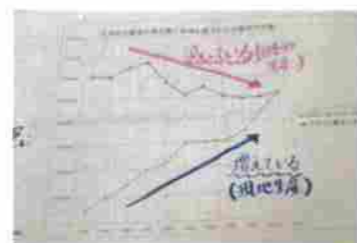
ICT機器活用のねらい

タブレットパソコンで資料提示を行い、グループの友達と一緒にグラフを見合い、グラフの見方や内容を読み取りました。そして、各グループの考えを一斉に表示することで、各グループの発表を比較でき、理解を深めることにつながりました。

グループの友達とグラフを見て、どこが変化しているのか読みといてみよう。



〇〇さんが言うように1980年と比べると燃料の割合が減っていることが分かりました。



資料を読み取って、根拠を明確にして考えることを大切に学習を進めていきました。

理科 学年6年 単元名「土地のつくりと変化」

実験結果を静止画や動画で撮影し、他グループの実験結果と比較する。

ICT機器活用のねらい

タブレットPCで実験の様子や結果を動画で撮影します。電子黒板に各グループの仮説、実験結果を一斉に表示することで、自分たちと他グループの結果を比較することができました。また、発表しているグループの画像を拡大して映し出すことができ、学級全員で実験内容についてより深く考えることができました。



予想と違って、泥がゆっくり積もっているね。撮影した動画をみんなでもう一度確認してみよう。



地層がきれいにできたね。動画を先生フォルダに提出しよう。他のグループの動画も早く見てみたいね。



川にある礫・砂・泥が水の動きによって、海の中でのようになっているのか実験を通して確かめました。

カメラで目線の高さを映して体感したり、
個人の記録のグラフを映しだしたりして、成長を実感する。

ICT機器活用のわらい

児童期の成長は、なかなか実感が伴わず、みんなで確認することは難しいです。ウェブカメラを使用して、目線をプロジェクターで映し出し、個人でしか感じることでできない目線の変化を全員で共有体験できました。

また、友達のグラフを見ながら、発育の気付きの発表を聞き、根拠をもって友達の意見を理解できました。学習内容を自分にてらして、積極的に考えることができました。



みんな身長のものび方がちがって一人一人毎日大きくなり成長をしているんだなと思いました。成長は大切なものだと思います。

背が同じくらいの人でものびた身長がちがっておどろきました。人それぞれののび方がちがっておもしろかったです。



ウェブカメラを使用したところ、「うわあ!こんなに違うんだ」と声が上がりました。その後、自分自身の成長テープをもった時に、頭の位置を変える等して意欲的に確かめていました。



アニメーションを使って資料を提示し、
児童の意識を集中させる。

ICT機器活用のわらい

プレゼンテーションソフトを使用し、教師の範読にあわせて紙芝居形式で挿絵をスクリーンに投影しました。アニメーションを使用するなど工夫をすることで、児童の意識をより一層資料へと集中させることができました。

授業では、くい入るように画面を見つめ、児童は範読を聞くことができました。



動きの音も入っているなんてすごいな。

大きい紙芝居みたいだな。カラフルだし分かりやすい。

